

令和5年度森林環境税活用事業評価シート(実績) 委員評価

事業No.	事業名	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等
R5-1	山の学習支援事業 (林業環境政策課)	● 事業を拡大 2	【事業を拡大】とした意見 ○森林との関わりを幼児期に持つことの重要性は他の委員の指摘するところであり、何らかの取り組みを検討する価値があると考ええる。 加えて、比較的幼い時期に、自然から学ぶ姿勢を経験することもまた重要である。教育内容の広がりとともに、学校教育の余裕が失われつつある中で、今後も森林環境教育を進めてもらうならば、森林環境教育の機能強化を図る必要があると考える。単なる体験に留まることなく、森林の発揮する多様な機能とその豊かさを題材に、課題探究力等を鍛えるフィールドワークを進めるなど、より深い学びを提供することを目指して、早期に新しい森林環境教育の教育者の育成に着手するべきであろう。
		● 現状のまま継続 6	○(1)「総合的な学習の時間」等において年間を通して森林環境学習を実施する事業について 現状、本事業において、幼児教育分野は対象外となっています。しかし、幼稚園教育要領、保育所保育指針等で示されている通り、幼児期の学習は総合的であり、それを専門としています。大人の自然に対する構えのベースに幼児期の原体験があることを考えると、幼児期の学びにこそ、本事業をあてるべきであると考えます。また、そのことによって、幼児期から学びの連続性を保証していこうとする県の姿勢を示せるのではないのでしょうか。
		● 改善のうえ継続 1	(2)山の一日先生派遣事業について 子どもの学びにおいて、山の学習(および自然体験活動)が日常化する、あるいは定期的であることが、学びの連続性と多様性を保証し、真の学びにつながっていくものと考えます。現行では、非日常的なイベントとして企画されている場合が多いのではないかと思います。子どもの主体的な学びを支える上では、週に1回や週に3回など、その教育現場の一員として根付くような人件費を補助していくことが、実質的な学びにつながっていくものと考えます。
		○ 事業を縮小 0	(3)木育指導員養成のための取り組みについて 木育指導員が自立して活動するためには、以下のハードルがあると考えます。 ①プログラムを立て、環境を構成し、実践するスキルを磨くことが難しい→実際にやってみる研修の場を持たない ②材料を調達できるところがわからない ③道具をそろえられない ④利用者を見つけることができない (同時に成果を出せるスキルがないのに、現場に立てない) このような問題に対して、相互のネットワークを広げること、持続的な研修を積んでいくこと、研修ができる現場を探していくこと、利用者の掘り起こしなどが必要かと思います。したがって、そのための人的、金銭的補助が必要であると考えます。
		○ 休廃止を検討 0	【現状のまま継続】とした意見 ○とても精力的に県内の活動を調査支援されている様子が伝わります。この事業は教育・啓蒙の核になりつつあると思いますので、その事業の大半を実質的に担当されている森と緑の会の方に本委員会に参画いただいて、質疑やアイデア出しに参加してもらうのがよいと考えます。 また、他の事業の内容も把握してもらえらる場となりますので、本基金運営の中軸として動いていただける可能性も高まると期待されます。 ○養成講座修了生による新団体立ち上げなどのよい動きが見られるため、この流れをモデルとして次に続く形を整えていただきたい。
R5-2	森林環境学習等 推進事業委託料 (林業環境政策課)	● 事業を拡大 1	【事業を拡大】とした意見 ○活動組織数の減少や不活性化は、今後の森林環境施策の展開自体に影を落とすものであり、ボランティア活動組織が活き活きと活躍できる環境を整えていくことが重要となっている。そのためには、ボランティア活動組織の現況を把握し、活動の未来を考え、課題をともに解決する体制の充実が求められている。仲介組織には、事業を運営する側だけでなく、事業を使う県民の側に立った視点からの指摘を期待する。 また、学校教育の環境変化で森林教育の機会が得難くなっている中、森林環境教育PGの進化も検討する必要がある。単なる施業体験や話を聞くだけの受け身の体験に留まらず、児童の能動的な動き・気付きを促して、+αの効果を付与するプログラムの作成を進める必要があろう。
		● 現状のまま継続 7	【現状のまま継続】とした意見 ○目標に少し届いていないが新規加入団体が増加していることは心強く感じる。こうした掘り起こしや団体の活性化に力をいれて基盤を整えつつ、事業を推進していただきたい。
		● 改善のうえ継続 1	【改善のうえ継続】とした意見 ○(1)山の学習支援事業に係る実施支援について 子どもたちに、森林の環境に関する日常的で、主体的な学びを保証していくことを考えた時、近くにその自然環境を持っているか否かは、とても重要な問題であると思います。現代、圧倒的な経験不足の子どもたちにとって、机上学習には限界があります。その意味で、学校林と隣接する学校を掘り起こし、学校林の活用の難しさはどこにあるのか調査が必要だと思います。そして、学校林の整備をどのように進めて行けるのか、その後、どのように活用できるのか、具体的に検討する道を探ってはどうか。 同時に、学校林だけでなく、近くに自然環境のある学校は、それをどのように利活用できるのか、また、できないのか調査はできないでしょうか。近くの自然環境を活用するための条件となる事項についての調査とその解決策に関する考察が必要だと考えます。また、その情報を、森林活用指導者養成講座を受け持つ生涯学習課と共有していくことが必要だと思います。 また、委員会で学校林に関する質問が出たときに、林業環境政策課の方が答えたり、生涯学習課に回したりしていますが、この問題についてリーダーシップを発揮するのはどの課なのか、それともどの課でも、なかなか難しいのか、この点を明らかにしてはどうか。特に生涯学習課は、さまざまな難しい問題を抱える学校現場と連動して、多様な学びを保証する道筋を多岐にわたって整えることを求められているため、新しい課題としてこの問題に十全に取り組むことは難しいのではないかと推察します。学校側も、学校林などの新しい教育環境を取り入れようとする余裕を持っていないでしょう。業務過多で疲弊している学校をその気にさせるのは、並大抵の事ではないと思います。そうであるなら、実際に学校にコンタクトを取ることが出来る機動性をもち、そこで課題解決を導きながら人材をコーディネートしていける組織に委託することも、将来的には検討すべきかと思います。そして、森と緑の会がその役割を担う可能性を持っているなら、マンパワーの保証も含めて考えていくべきかと思います。
		○ 事業を縮小 0	
		○ 休廃止を検討 0	(2)森林ボランティアについて 今ボランティアとして活躍してくださっている方々と、50代以下の世代では、おそらくそもそもの自然体験に大きな差がありますので、ボランティアに向かう気軽さが大きく違うと思います。まったく新しい世界に飛び込むという意識でボランティアをすることと、前にもやっていたことだからとボランティアに臨むこととは、緊張の仕方が違います。ただでさえ日々疲れているのに、わざわざ気力も体力も必要するところに飛び込んでいく人は少ないと思います。また現代の人は、自分の気力と体力を使うことに値する対価を求めます。ボランティアの限界を検討する必要があると思います。 同時に、「もりりん」では、林業等、木に関わることをとても魅力的に発信していると思います。「憧れ」への志向性は、上記に述べた対価の一つになり得ると思います。これからを担う若い世代は、「かつこよさ」に敏感であると思います。仕事や活動自体の「かつこよさ」「おもしろさ」を魅力的に伝えていく方法を、ネットやSNS等を通じて、数多く考えてはどうか。そこで興味や憧れを持ったら、すぐにやってみたいと思えるルートを探すことも大切かと思います。

事業No.	事業名	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等
R5-3	環境学習推進事業 (生涯学習課)	○ 事業を拡大	0	【改善のうえ継続】とした意見 ○執行率があまりに低い。原因がコロナや周知とされているものの、企画が学校や児童のニーズと一致していないのではないかと考えられます。原因解明の上で、継続かどうかを確定すべきと考えます。 ○執行率が33.5%と低い。根本的な改善か、廃止等の検討が必要ではないか。 学校教育側の視点で、森林についての施業体験や話を聞くだけではない、森林フィールド(校庭を含む)を活かした複数の教育効果を同時発揮しうるような学びの形を提案いただきたい。 ○森林活用指導者育成事業について 「森林活用指導者」とは具体的にどのような活動を行うのか、また行うことが可能なか見えないまま走っているので、このままでは参加者の減少が予想されます。もともとは、学校林の活用が視野に入っていたと考えられますが、学校林に関するデータがあるにも拘わらず、それが共有されていません。これも、異なる課がそれぞれの事業を受け持つことの難しさと考えます。情報共有がうまく進む手立てはないでしょうか。また、具体的に何がしたいのか、木育指導員との区別も含めて、もう少し的を絞るべきではないかと思えます。
		● 現状のまま継続	4	
		● 改善のうえ継続	5	
		○ 事業を縮小	0	
		○ 休廃止を検討	0	
R5-4	青少年新教育施設振興事業(生涯学習課)	○ 事業を拡大	0	【現状のまま継続】とした意見 ○期待しています。今後、「自然体験型学習事業」との比較ができれば、とてもよいと思います。 ○山の自然環境について、体験や実感できる機会を提供できる事業だと思う。是非継続して実行してほしい。 【改善のうえ継続】とした意見 ○実施できなかったとはいえ、応募数が定員の倍以上ある企画となっているので、継続すべきだと思いました。しかし、天候不順で実施できないというのはあまりに準備不足。中止のリスクが大きすぎるので、その対策を十分に整えることを継続の要件としたいと思います。こうしたリスク回避が出来ない場合には、事業縮小・廃止もやむを得ないのではないのでしょうか。 ○実績なしというのは、1年を棒に振ったのと同じである。開催数の増加や振替日の設定など、「実績なし」にならないよう事前の対策を求める。
		● 現状のまま継続	4	
		● 改善のうえ継続	5	
		○ 事業を縮小	0	
		○ 休廃止を検討	0	
R5-5	高校生森林環境理解事業(高等学校課)	● 事業を拡大	2	【事業を拡大】とした意見 ○他の産業同様、林業を含む森林環境保全事業にも多方面からより優秀な人材が求められる。そういった意味では、県中央部の高校からも広く募集するような仕組みが望ましいと考える。 【現状のまま継続】とした意見 ○森林環境保全を担う次世代に直結する部分で、とても大切な事業だと思います。短期スパンで森林への興味を盛り上げていくことと、幼児期から長期スパンで、そもそもの資質を育てていくこと、この両軸が必要だと思います。 【改善のうえ継続】とした意見 ○事業評価を改善してほしい。なにをもって評価しているのかが伝わらない。そのため、予算の大幅増額も説得性に欠ける気がします。 ○授業についての支援の形を継続してきたが、高校生自らの企画立案による課題探求活動(部活動等におけるもの)を支えるような事業を作れないか。 授業だとどうしても受動的になりやすく、特に参加学生の熱意のばらつきが著しい場合の授業効果は期待を下回ると思われる。 社会課題に対する学生の能動的な学びへの取り組みは近年注目されており、森林や関連産業に関わろうとする学生活動を促すことは産業人材確保の面でも効果があると思われる。 とはいえ、学生に事業費管理を課すことは難しいため、表彰の形や、協力企業への支援などの形も含めて、広く検討してはどうか。
		● 現状のまま継続	4	
		● 改善のうえ継続	3	
		○ 事業を縮小	0	
		○ 休廃止を検討	0	
R5-6	こうち山の日推進事業(林業環境政策課)	○ 事業を拡大	0	【現状のまま継続】とした意見 ○順調な事業展開がされていることが確認できます。可能なら、各活動の実態を評価して、優れた事例を共有するなどの作業ができないでしょうか。そのことで活動がさらに活発化する可能性がありますし、他の団体が学ぶ機会をつくることにもなりそうです。ご検討ください。以前からの懸案です。 【改善のうえ継続】とした意見 ○森林環境政策の担い手の多くはボランティア団体であり、そういう担い手を支える上で、当事業による担い手間の繋がりが作りや、集中的なイベント開催での雰囲気作りなどの効果は小さくはないと思われる。 しかしながら、「山の日」にこだわった支援事業を置く必要はあるのだろうか。事業種類を整理する観点から、独立させておく必要性は低いように思われる。事務負担を軽減するためにも、事業統合も念頭において考える必要があるのではないかと。
		● 現状のまま継続	7	
		● 改善のうえ継続	2	
		○ 事業を縮小	0	
		○ 休廃止を検討	0	
R5-7	森林・山村多面的機能発揮対策支援事業(林業環境政策課)	● 事業を拡大	1	【事業を拡大】とした意見 ○補助金額が少ない印象がある。 【現状のまま継続】とした意見 ○ボランティアネットワークの交流会などで情報交換ができれば、さらに活動が広がるかもしれません。 ○森林環境保全を進める県の姿勢と県民やIターンの方々のニーズが合致する事業だと思います。 ○ボランティア団体の多い小規模な森林整備の担い手を支える事業として重要であるとともに、国庫負担金をしっかり活用する意味でも重要な呼び水となっている。 【改善のうえ継続】とした意見 ○高齢化等の理由で事業拡大が困難な状況が見えている以上、同じやり方では問題の解決に繋がらないと言える。片手間で担い手を探すのではなく、担い手確保に注力した事業が必要だと感じる。
		● 現状のまま継続	5	
		● 改善のうえ継続	2	
		● 事業を縮小	1	
		○ 休廃止を検討	0	
R5-8	林業大学校(短期課程)研修業務等委託料(森づくり推進課)	○ 事業を拡大	0	【現状のまま継続】とした意見 ○事業のあり方を受講生やボランティア団体へのニーズ調査に基づいて、再検討するといった手順を踏めば、一層効果が上がるのではないのでしょうか。 ○受講者は少ないが県民にとっては貴重な研修機会だと感じる。ターゲットを再検討して必要とする人に情報を届けてほしい。 ○地道に続けていくべき事業と考えます。 ○次世代の育成として、短期スパンで成果が出せる重要な事業だと思います。 【改善のうえ継続】とした意見 ○R5年度実績は、初級(学科2日、実技1日)が7人/10人、中級(学科1or2日、実技1日)が9人/35人の実績であり、受講者数の充足率が低い状況が続いている。これは、潜在的な受講者数が少ないか、受講希望者のニーズに合った受講形態になっていないかである。後者の場合、よく説明される問題点が「受講場所までの来訪が厳しい」ということであるので、その点での受講者負担の軽減のため、学科だけでもオンライン参加型(もしくはオンデマンド型まで)での受講を想定してはどうか。
		● 現状のまま継続	7	
		● 改善のうえ継続	1	
		○ 事業を縮小	0	
		● 休廃止を検討	1	

事業No.	事業名	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等
R5-9	森林環境情報誌作成等委託料(林業環境政策課)	● 事業を拡大	3	【事業を拡大】とした意見 ○森林環境情報誌もりりんの動画がずいぶんと面白くなっています。ジンド池やアジロ山のように、モリリンとおだち(あつかんDRAGON)の掛け合いが吹き出しで登場して、笑いまでとるのは従来にない構成でした。こうした変化があるのであれば、それを多としさらなる工夫を促すために、予算を増やすのも一手ではないかと思いました。この間、なかなか突破できなかった動画の品質向上が進んだことを評価し、形にしたいくなりました。
		● 現状のまま継続	4	○情報誌は、配布範囲の面でも、SNS展開の面でも、紙面内容の面でも、改善を重ねてきている。今後の展開可能性としては、教育現場での活用を想定した、冊子やSNS情報の「<u>教育面での使い方</u>」の提示や、家庭での活用を想定した、「<u>森での子どもとの遊び方</u>」や「<u>森での遊びで子どもを学ばせる方法</u>」といった、<u>教育現場や家庭の需要に向き合う方向が考えられる</u>。こういった活用案をSNSで発信することで、フォロワーのメリットを生み出すことも重要である。活用案については、利用者投稿の形を取り、森林環境学習フェアでの学習アイデアの表彰に繋げて良いのではないか。
		● 改善のうえ継続	2	○雑誌自体の認知度をもっとあげていきたいが、それに伴い内容もより充実を図ってほしい。
		○ 事業を縮小	0	【現状のまま継続】とした意見 ○森林環境保全基金の運営における理念や課題を理解し、分かりやすく、読みやすく、楽しく情報化していると思います。
		○ 休廃止を検討	0	【改善のうえ継続】とした意見 ○情報誌作成がメイン事業であるため難しいと思うが、<u>フォロワー数等、WEB関連の数字が低すぎるため、若い世代に本気で情報を届けていくのであれば、ここの改善に力を入れてほしい</u>。 ○次年度も現状と変わらない計画であるなら、費用を他の事業に回すべき。<u>SNSを効果的に活用する為には、コンサルやインフルエンサー、ユーチューバー等に協力を仰いだ方が良いのではないか</u>。登録者数やフォロワーの伸びは、身内の範囲に留まっている。
R5-10	森林環境学習フェア等開催委託料(林業環境政策課)	● 事業を拡大	1	【事業を拡大】とした意見 ○森林環境税の活用先を知ってもらい、取り組みの意義を県民と共有することがこのフェアの目的であり、多くの来場者を招くことが重要である。近年は、取り組み自体を公園の外(アーケード)まで広げることが定着してきている。これにより、森林に関わるイベントを開催していることを知ってもらったり、予定外での来場なども増加してきていると思われる。
		● 現状のまま継続	5	○今後は、もう一歩進めて、<u>来訪者がより情報に触れるように促す工夫が必要</u>である。周辺店舗エリアも巻き込んで、このフェアでの学びの成果を示した場合に割引するなどの連携はできないだろうか。アンケートのお礼を小物配布にするよりは経済効果も活動周知効果も大きくなるのではないか。 30代以下の参加者が少ないとあるが、<u>実際参加してみると、20-30代は子ども連れの参加が多かった</u>。単にアンケート回答が難しいだけなのではないか。
		● 改善のうえ継続	1	【現状のまま継続】とした意見 ○イベントの大事なところは、興味を誘発し、それをどうつなげるかであると思います。このフェアに対して、真剣にPDCAを重ね、よりよいものしようと努力されていることが内容から伝わってきます。 単なる「遊び」になってしまったから、「学習」を入れるのではなく、「<u>体験を意味づけて学びとする</u>」ことが大事だと思います。何故、その「体験」をするのか、そして、その「体験」にはどんな意味があるのか、それを参加者にどのタイミングで、どのように伝えるのか、という視点で活動を考えられてはどうか。
		● 事業を縮小	2	【改善のうえ継続】とした意見 ○目標を大きく下回った以上、改善は必須と考える。<u>環境啓発を目的にすると著名人を呼ぶなど、人を惹きつける企画がないと来場者を増やすのは難しい</u>と感じる。個人的には、以前の木造住宅フェアのような、目的を絞った取り組みの方が集客はしやすいとは感じる。
		○ 休廃止を検討	0	【事業を縮小】とした意見 ○2日間もやるのに内容が希薄。
R5-11	緑化促進事業(林業環境政策課)	● 事業を拡大	1	【事業を拡大】とした意見 ○そもそもの環境がないと子どもが自然(木)について学ぶことができないので、緑化を進めていくことは大切だと思います。したがって、<u>教育現場等における「植樹」はとても重要で意義深い活動だと考えます。「緑化」であり、「体験」も保証するとすると草花、畑も対象に出来ないでしょうか。</u> 同時に、今ある「木」をどう扱っているのかということは、県の姿勢を広く県民に示すものであると考えます。現行のある地域における街路樹の強剪定は、「木と共に生きる」という木育を進める県の姿勢に合ったものでしょうか。むしろ県民には、落ち葉が邪魔であれば、無残な姿にしても致し方ないというメッセージが伝わっているのではないのでしょうか。事実、そのように感じている一般の方の声を聞きます。落ち葉ができるのは当たり前と受け入れる精神性を県民が持つことと安全や落ち葉による景観の乱れを乗り越える方策はないのか、ご検討いただきたいと思います。
		● 現状のまま継続	4	○それに付随して、県花であるやまもの実を教育現場で有効活用できたら(食べられると一番ですが、色水遊びなど、やまもの実で実体験ができます。)県花が「やまもも」であることを知らない人は減ると思います。 さまざまな環境、場面、時期を通して、「木とふれあい、木に学び、木と共に生きる」姿勢を示していくことが、県の役割かと思っています。
		● 改善のうえ継続	2	【現状のまま継続】とした意見 ○ニーズが確実にあれば増額も賛成です。
		● 事業を縮小	1	【改善のうえ継続とした意見】 ○郷土樹種で街を緑化していく場合、単に植えるだけでは県民に伝わらないのではないか。植えるだけに留まらず、<u>何を植えているのか・何故植えているのか</u>というところを県民に気付かせる仕掛けが必要である。 希望があれば整備するのではなく、<u>重点エリアを定め、街の風景を変えるような取り組みを進めるほうが、変化が良くわかり、県民に響く事業となる</u>のではないか。
		● 休廃止を検討	1	【休廃止を検討】とした意見 ○県下の公園内に植林などをするなら分かるが、道路の木の新定などの人件費などに環境税が使われるのは環境税の趣旨が違う。
R5-12	(県立南喜ヶ峰森林公園)Wi-Fi設備設置委託料(林業環境政策課)	● 事業を拡大	1	【改善のうえ継続】とした意見 ○ハード整備の後には、どう使うかが課題となる。<u>Wi-Fi設備を活かした学び方・遊び方を提案することが重要</u>である。Wi-Fi活用方法の普及を目的とするイベントを開催することも望ましいし、SNSで発信し、相互投稿するような形などで県民側から利用方法を募集するような環境整備も重要である。
		● 現状のまま継続	6	○R5-9の森林環境情報誌についても類似の課題を擁しているの、こちらをモデル事業地とするなど、事業連携を検討することが望ましい。
		● 改善のうえ継続	1	
		● 事業を縮小	1	【事業を縮小】とした意見 ○南喜ヶ峰にどのくらいの集客があり、来場者が森林環境の事を考えているのか疑問。県下には他にも小さい子供の利用する公園があるのに、<u>何故南喜ヶ峰だけの取り組みなのか。県東部や西部にも同じように取り組むべき</u>。
		○ 休廃止を検討	0	

事業No.	事業名	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等
R5-13	座談会等開催委託料 (林業環境政策課)	○ 事業を拡大 0	【改善のうえ継続】とした意見 ○従来のように、税制とその成果を説明して、意見ありませんかという漠然とした投げかけを続けても理解は深まらないと思います。業者に委託する前に委員会なり庁内でどのような投げかけをするかを検討した上で、委託要件を出すべきだと思います。これは基金の県民認知率を引き上げる基本的な考え方にも繋がるので、しっかり議論すべき点だろうと思います。 ○手段である座談会開催が目的化していないだろうか？ 座談会の実質化のためには、参加したくなる工夫(意見の反映実感など)が必要である。「森林環境税の使い道アイデア」などの広範なテーマではなく、ある程度テーマを限定して、実施するなど検討してはどうか。例えば、委員の所属に合わせて「幼児教育」「学校教育」「生涯教育」「野生動物」「広報」「街づくり」など設定して委員参加で意見交換するのも良いのではないかな。 また、対面とオンラインの併用開催も検討しつつ、意見のある人が参加しやすい環境整備が必要である。議論の内容も、具体的な事業企画まで進むことがあってもいいのではないかな。議論時間を確保するため、森林環境税の現状説明などは、動画視聴可能な形として、事前に視聴してから参加してもらおう等、大きく運営方法を変えても良いのではないかな。 ○一般県民の参加しやすい座談会に改善しては。税について、広くPRする場にするため改善継続していく事業だと考えます。 ○意見交換の内容の広報をよろしくお願いします。 ○委員会でも話がでたとおり、プロポーザル参加事業者の森林環境税への理解が乏しく、ただイベントを実施するだけの事業として受け取られている印象がある。もう少し理解を深めていただく工夫を盛り込んでいただきたい。また、プロポーザルに参加する事業者を増やすため、これまでと異なる事業者にもアプローチしてほしい。 【休廃止を検討】とした意見 ○開催委託料とあるが、委託先とR3からR4でいきなり予算が増えているが、経費の内訳を知りたい。座談会でどのような意見が出たのかを知りたい。いい意見が出ているならその意見を委員会でも取り上げ実施するようにすべき。
		● 現状のまま継続 2	
		● 改善のうえ継続 5	
		○ 事業を縮小 0	
		● 休廃止を検討 2	
R5-14	運営委員会等開催費 (林業環境政策課)	● 事業を拡大 1	【事業を拡大】とした意見 ○予算の決定や査定に時間をとられすぎているので、これとは切り離れた委員会を1回設けてもよいのではないのでしょうか。また、現地で話合うのも重要かと思います。 【現状のまま継続】とした意見 ○退任された飯國委員長の言葉通り、事業評価だけにしないようにしていただきたい。また、林業・環境分野は全体的にデジタル化が遅れていると強く感じるため、全ての事業において、デジタル活用の可能性を検討いただきたい。 【改善のうえ継続】とした意見 ○事業評価ではなく、事業全体の方向性について話せる会議を設ける必要がある点について賛同する。座談会との抱き合わせで行うことも含めて検討してはどうか。
		● 現状のまま継続 6	
		● 改善のうえ継続 2	
		○ 事業を縮小 0	
		○ 休廃止を検討 0	
R5-15	木の香るまちづくり 推進事業(木材産業振興課)	○ 事業を拡大 0	【現状のまま継続】とした意見 ○学校の職員も県民なので、職員室の木質化も推進して頂きたいです。教員が疲弊し、人材不足が深刻化している現状を鑑みても、職員室が「木の香る」場所になることは、よいことではないでしょうか。 【改善のうえ継続】とした意見 ○住宅工法が大壁工法に大きく変わり、日常的に木材に触れるということが少なくなりつつある中、木材に触れる機会を十分に作ることは木材利用を進める上で重要な環境づくりでもある。特に、森林や木材に関する教育が義務教育の中で長らく重視されないまま、家庭でも建築工法の変化等で知識を伝える機会が減少しているため、木材に触れる機会のみならず、利用知識に触れる機会、木材の効用を自然に学ぶ・感じるための工夫もまた必要である。
		● 現状のまま継続 6	
		● 改善のうえ継続 1	
		● 事業を縮小 1	
		● 休廃止を検討 1	
R5-16	環境不動産評価事業 (木材産業振興課)	○ 事業を拡大 0	【休廃止を検討】とした意見 ○事業説明は一貫したものであるべきである。 事業コストに比べて事業メリットが見合わないのではないかな。 ○委員会でも多くの意見が出された通り、現状の内容で取り組みが広がるとは思えない。 スタートダッシュとなる初年度のPRで目標認定数36件に対して0件、認定に向けて動いている取り組みも1件しかない結果をみると、今後PRを行ったとしても普及する見込みは薄いと感じる。 ○誰に何のメリットがあるのか。県民からの税金の使途、認定機関も問題。
		● 現状のまま継続 1	
		● 改善のうえ継続 4	
		● 事業を縮小 1	
		● 休廃止を検討 3	
R5-17-1	指定管理鳥獣捕獲等 事業(鳥獣対策課)	○ 事業を拡大 0	【改善のうえ継続】とした意見 ○費用対効果が伸び悩んでいる。捕獲のみを目的に進めるのではなく、見回りコスト低減の様々な工夫を検証するモデル事業など、複数の効果を狙うような事業として費用対効果の改善を図ってはどうか。 ○事業の目的等は理解できるが、一頭当たり30万円程度の経費になり、費用対効果は低い。 また、国有林での実施について、森林管理署の関わりが見えないため、改善して継続が必要と考えます。 【事業を縮小】とした意見 ○国の責任や制限解除などの方法も合わせて検討して頂きたい。
		● 現状のまま継続 6	
		● 改善のうえ継続 2	
		● 事業を縮小 1	
		○ 休廃止を検討 0	
R5-17-2	第二種特定鳥獣捕獲 推進事業(中山間地域対策課)	○ 事業を拡大 0	【現状のまま継続】とした意見 ○事業成果は上がっていて、継続を望む事業。しかし、捕獲後の罠の損傷が激しく、二度と使用できない罠が発生する。事業継続で多くの罠を配布してきている中、罠の補修用部品の配布をすればより一層事業効果が上がるのではと考えます。
		● 現状のまま継続 8	
		● 改善のうえ継続 1	
		○ 事業を縮小 0	
		○ 休廃止を検討 0	
R5-17-3	森林環境保全対策シカ 捕獲事業(中山間地域対策課)	● 事業を拡大 1	【改善のうえ継続】とした意見 ○現在5市町村で実施しているが、他市町村への事業拡大も必要ではと考えます。
		● 現状のまま継続 6	
		● 改善のうえ継続 2	
		○ 事業を縮小 0	
		○ 休廃止を検討 0	
R5-18	希少野生植物食害対策 事業(自然共生課)	● 事業を拡大 3	【事業を拡大】とした意見 ○保護地域が約50力所に上るようになり、現在の体制では限界が来ているのではないかな。希少野生植物の育成に関わるボランティア(苗の里親制度、公園などへの植栽・手入れなど)を導入するなど、県民も巻き込んで取り組むことを考える段階ではないかな。植樹祭も良い機会であり、県民に秘匿するのではなく、県民を巻き込み「希少」でなくする取り組みに舵を切ってもいいのではないかな。 ○急激な食害に対応するには、事業を拡大する必要があるのでは。また、事業実施地域でのシカの捕獲を強化する必要があると考えます。
		● 現状のまま継続 5	
		● 改善のうえ継続 1	
		○ 事業を縮小 0	
		○ 休廃止を検討 0	